

小浜地域審議会

答 申 書

平成28年3月29日

小浜地域審議会

目次

「雲仙・小浜の温泉街、商店街における市民が一体となった観光産業の振興や観光客誘致に向けた取り組みについて」・・・P 1

「水産業における、橘湾沿岸の磯やけなどによる漁獲量の減少について」・・・P 2

「国道 5 7 号の災害や緊急医療時における代替道路となる愛野小浜バイパスの整備について」・・・P 2

「観光資源の情報発信と空き店舗等の活用について」・・・P 2

「農林水産物の地産地消の推進と「雲仙ブランド化」の推進について」・・・P 3

「BDF（バイオディーゼル燃料）や未利用温泉廃熱を活用した小規模バイナリー発電等新エネルギーについて」・・・P 3

答 申 書

雲仙市長 金澤 秀三郎 様

平成27年5月18日付けで諮問のあった事項について、当地域審議会において審議した結果、下記のとおり答申いたします。

記

新市建設計画(総合計画)の執行状況に関する事項について

[雲仙・小浜の温泉街、商店街における市民が一体となった観光産業の振興や観光客誘致に向けた取り組みについて]

- ・観光産業の振興には、常にスピード感のある施策が求められ、誘客に向けたイベント等は半年程前から取り組みが始まります。市に対しても、準備段階からイベント等の実施まで一貫した支援が求められます。
- ・一人一人が、本地域の主たる産業である観光業の担い手であるとの意識を持つことが重要であると考えられます。そのためには、一人一人が役割を持ち、挨拶の徹底や地域の美化活動などの市民ボランティア運動を活発にする必要があります。

[水産業における、橘湾沿岸の磯やけなどによる漁獲量の減少について]

- ・橘湾の環境は、有明海の水質に大きな影響を受けると考えられ、本市北部地域の下水道加入率の向上により、改善されつつあります。しかし、漁獲量の低迷により漁業者は依然として厳しい状況にあり、磯焼けなどの問題は対策を講じていても、一定期間で元の状況に戻ってしまうため、現状を十分に反映させた長期的な計画の下、継続的な対策が求められます。

[国道57号の災害や緊急医療時における代替道路となる愛野小浜バイパスの整備について]

- ・愛野小浜バイパスの整備については、島原半島全域の利益となるよう、近隣市や期成会などと十分に協議し、国道57号線の拡幅改良や、周辺道路の整備による災害時や緊急時の対応強化を含め、連携した取組みの検討が求められます。
- ・関連して、現在整備されている山領・木場線についても、適正な進捗管理のもと、早急な完成が求められます。

[観光資源の情報発信と空き店舗等の活用について]

- ・ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の発展により、個人レベルでの情報発信が容易になってきており、地域の情報発信の担い手は、事業者だけではなく、本地域を訪れる人や、住民の全ての人が広報マンであるとの意識の醸成が図れるよう、対策を講じる必要があります。

- ・本地域では、島原鉄道小浜ターミナルの空き店舗スペースや、保育園跡地が店舗として活用が図られております。空き店舗の活用については、初期費用だけではなく、運営への支援も検討し、安定した経営が図れるよう対策が求められます。

[農林水産物の地産地消の推進と「雲仙ブランド化」の推進について]

- ・雲仙ブランドの知名度は、高いとはいえない状況にあります。また、地域でも食べられる機会が少なく、ブランドが定着していないことが課題です。「雲仙ブランド化」の推進のためには、まず、地産地消の取組みを進め、地域で愛されるブランドとなることが優先されます。

[BDF（バイオディーゼル燃料）や未利用温泉廃熱を活用した小規模バイナリー発電等新エネルギーについて]

- ・環境省の事業モデル地域に選定されたことを契機として、「長崎大学と島原半島3市との包括連携に関する協定」が締結されるなど、本項目に対する関心は高まっております。他地域に先行してバイナリー発電等の取組みが進められている雲仙市がリーダーシップを十分に発揮し、島原半島地域が一丸となって、更に取組みを加速させていく必要があります。

地域振興に関する事項について

別紙、提言書のとおりとする。

なお、本計画は新市を建設していくため、長期的視野に立って策定されたものであり、本答申で指摘した事項を始め、市が行う諸施策の展開については、健全な財政運営を常に心がけ、地域や市民と協働のもと、計画に示される将来像の実現に向けた弛まぬ努力を行なっていく必要があります。

平成２８年３月２９日

小浜地域審議会
会長 今崎 正敏